



悠久の歴史と多彩な文化が息づくインド。仏教発祥のこの地に今、日蓮仏法の光が旭日の勢いで広がっている。インド創価学会（BSG）の友は「アイ アム シンイチ・ヤマモトノ（私は山本伸一だノ）」との誇りを胸に広布に励んでいる。去る2月、デリーと東部の大都市コルカタを訪れ、その模様を取材した。（6月5日付）

人材の大河も“一人”から

仏教発祥の地 インド



英国統治時代の1931年に完成したインド門。デリーを象徴する高さ42%のこの門は、第1次世界大戦で戦死したインド人兵士の慰霊のために建設された。壁面には戦死者の名が刻まれている

空港を出た瞬間、じわりとした湿気が肌を包んだ。通りではクラクションを響かせながら、車やバイクがひしめき合っている。首都ニューデリーの街には活気があふれている。ここからさらに東へ約1500キロ。詩麗タゴールを生んだ地の都コルカタに向かう。街の空気はどこか柔らかな。風景を撮影しようとシ

社会を変える人間革命のドラマを

こうして「励ましの心」はインドの各地に広がる。コルカタ在住のトゥル・サハさんは、17歳の時、家族の不仲と将来への不安に押しつぶされうろたえていた。そんな時、いこから学会のことを聞き、入会。まるで家族のように寄り添い、励ましてくれる同志たちの存在に、心が救われた。「励まされる側から、今度は自分が励まし側に」。サハさんは、自身が家庭環境で苦悶した経験を生かし、社会的に弱い立場にある家庭を支えるNGOに就職した。コルカタには依然として公共サービスが行き届かないスラム地域が存在し、さまざまな支援が求められている。



師弟不二を貫くトゥル・サハさん

「まず、つながることが、励ますこと。そして、目の前の人の小さな変化に目を付けるように。そう語るサハさんは、社会的に孤立的な人々の家を訪問し、励ましを重ねている。学会活動で培った「二人を大切に」の精神―の発露であり、彼の実践が地域の人々の心を照らしている。サハさんは、「入会前は自身の境

人材の大河も“一人”の励ましから―師の薫習に導かれ、インドの各地で目の前の友に尽くし抜く弟子の姿を見た。「全ての子どもに学ぶ権利を」。自身がデリーに開設した学校を運営するフージャ・カタルさんは23年前、「十界論」を友から学び、「どんな苦境にあっても自らの生命を開くことができる」という哲学に

「希望を見出し、学会に入会した。昔金で家を手放さざるを得なかった彼女は、信心の力で立ち上がり、2年後には夫と2人の娘も創価家族の一員に加わった。そして、8年かけて借金を返済した。一人は週に左右されず、必ず幸福になる。一信仰を通して得たこの確信が、彼女を教育の道へと突き動かした。ユネスコなどの報告によるとインドでは、数多くの子どもたちが初等・中等教育を受けられていない。特に貧困層やカースト制の影響を受ける地域では、子どもたちは幼いうちから働かざるを得ない現実がある。カタルさんは学校の教師だった経験を生かし、経済的困難を抱える子どもたちのためにNGOを立ち上げ、学びや開校。これまでに延べ500人以上が学び、自ら希望を胸に社会へ羽ばたいている。二人の女性の決意が社会を変え



学生部の友を励ますイフシタ・グプタさん

希望を見出し、学会に入会した。昔金で家を手放さざるを得なかった彼女は、信心の力で立ち上がり、2年後には夫と2人の娘も創価家族の一員に加わった。そして、8年かけて借金を返済した。一人は週に左右されず、必ず幸福になる。一信仰を通して得たこの確信が、彼女を教育の道へと突き動かした。ユネスコなどの報告によるとインドでは、数多くの子どもたちが初等・中等教育を受けられていない。特に貧困層やカースト制の影響を受ける地域では、子どもたちは幼いうちから働かざるを得ない現実がある。カタルさんは学校の教師だった経験を生かし、経済的困難を抱える子どもたちのためにNGOを立ち上げ、学びや開校。これまでに延べ500人以上が学び、自ら希望を胸に社会へ羽ばたいている。二人の女性の決意が社会を変え

世界でも模範となる広布拡大を遂げているBSG。しかし、そこに「特別な方法や「秘策」があるわけではなく、メンバーが、「目の前の友人を幸せにしたい」という思いを胸に、一人また一人と対話を重ねる。街角でも、職場でも、家庭でも。そこかしこ、自然に、そして情熱的に対話が繰り返り広げられている。ウトウカルシュ・サハさんが学会と出会ったのは2023年。職場

の同僚に誘われて参加した学会がきっかけだった。当時、仕事のストレスと人間関係の悩みに押しつぶされそうになっていた彼は、半年半ばで唱えた題目で、心が不思議な温かさに満たされた。「何とも言えない気持ち」がふふと湧きあがってきた。翌年から本格的に学会活動に取り組みようになった。環境はすぐには変わらなかった。転職を試みるも難航。そんな時、支えとなったのは同志の存在だった。共に折る中で「負けじど」が胸に熱く燃え上がった。くくけそうになる心何度も鼓舞して、題目根本の実践を続けた。とうとう、願った通りの条件で再就職を勝ち取ることができた。「ただ外の環境が変わったのでは足りない」とサハさん。気付いたのは、短気だった性格は穏やかになり、未だ全ての家族が学会活動に理解を示し、会合などの送迎をしてくるようになった。「信仰で磨かれた自分の振る舞いが、信頼を広げる最良の方法だと実感しています」こうした無数の「二人の人間革



前進を誓うウトウカルシュ・サハさん

「私」の積み重ねが、ラ、インド全土に広がっている。約30万人のBSGメンバーが連帯し、地域社会の中で確かな信頼の陣列を築いている。池田先生は、1961年1月のインド初訪問を振り返り、当時の真摯な姿をこう語る。「私がインド訪問の第一歩を印した当時、現地のメンバーとお会いすることはなかった。夕陽迫るガンジ

「二人の人間における偉大な人間革命は、やがて一国の革命の転換をも成し遂げ、さらには全人類の革命の転換をも可能にする」と小説『新・人間革命』の研究運動が定着しているBSGでは、その主旨を心に深く刻み、一人一人が「人間革命のドラマ」を演じ抜くという誓いを立てる。その生き方は、次の世代へと確かに受け継がれる。

「一人の人間における偉大な人間革命は、やがて一国の革命の転換をも成し遂げ、さらには全人類の革命の転換をも可能にする」と小説『新・人間革命』の研究運動が定着しているBSGでは、その主旨を心に深く刻み、一人一人が「人間革命のドラマ」を演じ抜くという誓いを立てる。その生き方は、次の世代へと確かに受け継がれる。

インベーションも、サステナビリティも支える、TOMOWEL。

企業のヘルスケア事業を支援し健康な社会をめざす

盗撮防止機能のあるユニフォームの素材を開発

従業員のエンゲージメントを高める教育コンテンツの開発

紙のラミネートチューブやパッケージを開発してサーキュラーエコノミーに貢献

「こんな未来を支える取り組み」紹介中

〒112-8501 東京都文京区小石川 4-14-12 <https://www.kyodoprinting.co.jp/>

TOMOWEL | 共同印刷株式会社